

用の道具が、一般の店でも手に入る。

ジャガイモの小売用パッケージ袋は、日本では透明ビニール袋が一般的だが、米国では赤茶に着色した袋が主流である。イモの緑化防止に役立っているのかもしれない。

また、ダンボールの大箱には“Keep Cool and Dark”（冷暗所に保存せよ）と注意書きがある。皮ごと丸のまま調理するからこそ、緑化によるエグ味と品質劣化には十分注意を払っている。

結　　び

アメリカ合衆国内のジャガイモ相場は、数年前の倍近く高騰している。日本の国内価格とくに北海道産と比べた場合、最近の円安との相互効果で価格差はなくなった。アメリカ国内の高値相場は、2～3年続くだろうと多数が予測しており、しばらくはアメリカポテト協会による日本への売り込み攻勢も緩むものと思われる。これからの数年間は、日本のジャガイモ産業全体にとってシェア回復の好機でもあり、逃したらば衰退あるのみであろう。今までは品質で競争する前に、価格で負けていた。ところが今は違う。まさしく品

質つまりトータルなジャガイモとしての魅力の勝負である。

輸入ジャガイモ製品を生イモ換算すると40万トンを超え、一般市場流通量に迫る伸びである。ほとんどが冷凍フレンチフライの増加によっている。国内産の消費を伸ばすには、この需要部分を何らかの方法によって国内産で置き換えてゆく必要がある。消費者の油離れ、低カロリー指向、グルメ化健康指向、そしてファッション化を的確にとらえた戦略を展開しなければ国内産を伸ばせない。そのためには新製品の開発、新しい形質を持った品種開発と既存系統の新しい視点からの見直しをすすめる必要がある。こうして数年のうちに足腰のしっかりした生産・加工・流通システムをつくり上げることによってのみ、ジャガイモ産業の発展が期待できる。

アメリカのジャガイモ料理からのヒントは皮付きのベーク、カラー、風味である。

日本で皮を積極的に活用し、色と香り、味、栄養を味うにはグリコアルカロイドの少ない品種の普及と曝光させない取扱いがカギであろう。

常識法話

◆ 賄賂罪の本質

政界の今大閥と言われた田中元首相・財界の亀鑑とされたNTTの真藤元社長も、あっけなく、「賄賂罪」で摺った。

多くの人の常識では、金を貰わなければ、罪にならない。金を貰っても、よって不正なコトをしなければ、罪にならないものと信じている。賄賂罪の本質は、職務権限を汚してはならないという所にあって、金銭の授受そのものではない。借用証を作

っておけば、罪にならないなどと考えている者が多いが、とんでもないことである。誰にでも金を貸してくれるというものではない。また、後日、金を返したからと言って、困ったとき、金を貸してくれたということは、誰にでも都合してくれるものではない。それが経済的恩恵で、その利益が賄賂なのである。

世の中には、十露盤ではじけぬ経済的利益がある。世渡り処世術の中に賄賂という関所のあることを忘れてはならない。